

## 運動 / 薬剤負荷 心筋シンチ検査のご案内

フリガナ	予 約 日 時
お名前	年 月 日
	時 分

### <当日のご案内>

1：予約時間の30分前までに、

「総合受付1番：紹介状をお持ちの方の受付」にお越しください。

【持ち物】紹介状、保険証（医療受給者証）

診察券（カード）※当院を受診されたことのある方のみ

2：受診票を受け取り、「放射線科受付」にお越しください。

※負荷検査後、30分後（午前中）、2.5-3.5時間後（午後）の2回撮像があります。

- なるべく金具のない服でお越しください。  
運動負荷心筋シンチグラフィを受ける方は、靴下を着用あるいは持参し、運動しやすい服装でおいでください。
- 食事：検査前日夕食後より、食事、牛乳、ジュース、砂糖やカフェインを含む飲み物（コーヒー、紅茶、緑茶）をとらないでください。水、麦茶は飲んでもよいです。
- 朝、昼の注射後に摂取するための、軽食（パン、おにぎり、弁当など）2回分と水分500ml以上をご持参ください。
- 朝の薬：糖尿病の薬、ペルサンチン（ジピリダモール）は中止してください。他の薬は通常通り服用してください。
- 検査費用は3割負担の方で約3万5千円かかります。
- 結果（CD-ROMまたはフィルム、報告書）は後日、主治医宛に郵送となります。
- 妊娠中の方には本検査を行いません。以下の方は検査時に注意が必要です。事前に担当医もしくはスタッフに相談してください
  - ・授乳中の方、乳幼児を抱く可能性がある方
  - ・閉所恐怖症の方
  - ・仰向けの姿勢が困難な方

予約日以外での検査は行っておりませんので、ご予約日に来院できない場合は、必ず前日15時までに連絡をしてください（土日祝除く）。

※検査薬は高価で翌日には使用できない特殊なお薬なので、当日のキャンセルは極力ご遠慮ください。

# 負荷心筋シンチ 検査説明書

## 目的

負荷心筋シンチグラフィは、心臓に取り込まれるように設計されたラジオアイソトープという微量の放射線物質を注射して狭心症、心筋梗塞患者における心筋虚血（冠動脈に狭いところがあり心筋への酸素供給が不足した状態）の有無を調べるための検査です。その他、カテーテル治療や手術の効果の判定にも有用です。妊娠中でない限り、放射線障害の心配はありません。

## 方法

検査中は循環器内科医が見守り、検査室には緊急処置ができるよう、救急器具、薬剤が用意されています。負荷は、運動負荷と薬剤負荷のいずれかでを行います。

- 運動負荷：心電図モニターをつけ、静脈点滴ののち、ルームランナーに似た機器（トレッドミル）の上で早歩きをします。歩く速さ、上り坂の割合は3分おきに上がっていきます。原則的に、一定の心拍数に達したときにアイソトープの注射を行い、さらに1分間歩きます。
- 薬剤負荷：心電図モニターをつけ、静脈点滴（2箇所）ののち、アデノシン（狭心症の患者さんに心筋虚血を引き起こす薬剤）を6分間かけて注射します。途中でアイソトープを注射します。薬剤注射中に下肢の屈伸運動をする場合があります。

アイソトープ注射 30—60 分後、SPECT 機器で心臓を撮影します（約 15 分間かかります）。  
撮影後、60-120 分後に再度アイソトープの注射を行い、さらに 30-60 分後に心臓の撮影を行います。診断能向上のため、シンチグラフィ撮影直後に同じ機器で CT を撮影します（ただし、被曝量が通常より少ない特殊な CT 画像のため、通常の CT と異なり、肺などの病変を詳しく診断することはできません）。検査費用は、3割負担の方で約3万5千円です。

## 合併症

ラジオアイソトープ使用による合併症：アイソトープ皮下漏れ（0.07%）が起こった場合、皮膚障害（発赤、発疹、潰瘍）の可能性（頻度不明）があります。

運動負荷による合併症：重篤な不整脈・血圧低下・徐脈の頻度は0.008-0.24%、死亡率0.004%と報告されています。また、転倒によるけがの可能性もあります。

薬剤負荷による合併症：アデノシンによる副作用は、ほてり感（35—40%）、胸痛（25—30%）、呼吸困難感（20%）、めまい（7%）、徐脈（12%）があげられますが、ほとんどは薬の投与中止後によくなります。心筋梗塞などの重篤な合併症の発生率は0.1%未満です。

副作用、合併症出現時は、医師が速やかに対処します。